

第8回 夏季研修大会を終えて

九州個性化教育研究会副会長

沖縄県具志川市個性化教育研究会顧問 宮里 朝景

新指導要領と個性化教育のあり方「個性を生かす授業づくり」をテーマに、全国個性化教育連盟主催、恒例の夏季研修会（第8回）を盛会裏に終えることができたことに對し、担当地区として関係各位に深甚の謝意を表し重ねてお礼を申し上げます。

特に、連盟本部の先生方や、研究発表を担当された先生方、並びに指導助言をして下さった多くの先生方に感謝申し上げます。

子ども達の個性を最大限に尊重してやり、学ぼうとする意欲をどのように引き出し、学習した成果をどのように認め、学習の満足感と成就感を個々の子どもにどのように与えてやるか、これこそ教育の永遠の課題であり、個性化教育の終局的なねらいであると私は信じています。

わたしたちの具志川市においては、當銘市長の「明日を担う人づくり」の重点施策を受け、十数年前から教育施設のオープン化に多額の予算を投入して学校建築を進めて参りました。ハードの面は、目標達成に近づいて来ましたが、その間、教育内容の整備が、必ずしも満足すべきものとは言えないのが現状であり、その課題解決のためにも、教育現場における個別化、個性化教育の研究と実践が必要不可欠の課題であると認識していました。

今回の全国夏季研修大会は、その課題解決のためのアプローチとして積極的に引き受け取り組んで参りました。加藤先生から「第8回大会は沖縄で開催したい。」と打診された時点では、正直言って不安が先行し暗中模索の状態でした。これまで個々バラバラの会員をまとめるために、平成元年に具志川市個性化教育研究会を発足させ、各学校においては、校内研修のなかで個別化個性化教育の理論研究と平行して公開授業等を積極的に取り組んで参りました。何よりも力強く、今後の個性化教育に希望が持てたのは、

本大会をを運営するにあたり若い教員で運営委員会を組織し、そのパワーが遺憾なく発揮されたことでもあります。紙面をかりて敬意を表したいと思います。

市内、県内外、外国から700人余の参加者があったことも今大会の特筆に値する実績だろうと思います。染田屋会長の御挨拶の中に「個性化教育の風を沖縄から」と言うお言葉に、かなりのプレッシャーがあったのも事実ですが、参加なされた多くの先生方が、これを機会に個性化教育の研究に尚一層の努力と研鑽をしていただくことを信じて疑わないものであります。研修大会の余韻が未だに醒めやらぬ現在ですが、2学期から更に研究を深め、個性尊重の教育のあり方を究めていく必要を痛感しています。全個教研の更なる発展を期待しています。

第8回夏季研修会日程

7月27日(月)

・公開授業

A会場 藤原小学校

B会場 高江洲小学校

C会場 高江洲中学校

・個性化の授業づくりの発表(各会場)

・昼食(全体会場)

・アトラクション(エイサー、三味線)

・課題研究発表

・講義 全個教連 事務局長 高浦 勝義

・講演 全個教連 副会長 加藤 幸次

・懇親会

7月28日(火)

・講演 都立大助教授工学博士 上野 淳

・施設参観

具志川市役所

株式会社「沖縄蘭研」

第8回 全国個性化教育研究連盟夏季研修会

テーマ 新学習指導要領と個性化教育のあり方

—個性を生かす授業づくり—

平成4年7月27日(月)～28日(火)

於 兼原小学校 高江洲小学校 高江洲中学校

キャッスル・ハイランダー

☆第1回 7月27日(月)

午前(各会場)

A会場 兼原小学校

・公開授業

算数(3、4年) 体育(5年) 音楽(6年)

国語(兼原小5年)

広々としたオープン・スペースをもち兼原小学校での公開授業では、一人一人が、利々の課題に向かって、生き生きと活動していた。算数では、手・足を組んで到達度の違いにより、補充・深化・発展の学習コースを設定。子ども自ら自己評価に基づく演展により、自ら学ぶ態度を育成している。また、神楽の文化を取り入れた音楽・国語では、郷土文化のよさを子どもと共に発信者も堪能することができた。

・研究発表 「個性化への授業づくり」

提案者 池田信一先生(福岡・志免西小)

白野祐子先生(福岡・久原小)

「スズメの学校」と「メタカの学校」をミックスした学校(学級)づくりをめざしてという発表。その子にも同じように学びたい。また、個性を發揮できる場を作っていきたいという願いのもとに実践を報告された。学力差に感じた個別・集団学習を手づくりの学習材で指導し、結果を上げている。2人の熱意が伝わる発表だった。

提案者 宮崎弘子先生(東京・根岸小)

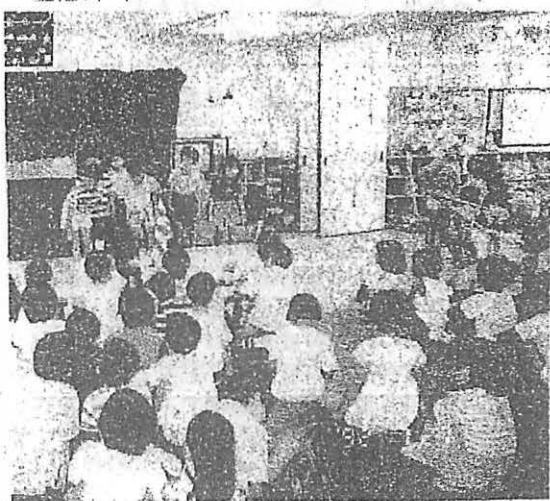
学校全体が組織的に取り組んでいる。計画から協力教授を行い、1つの单元について、指導形態・学習環境・評価の3つの部で話し合う。大変なエネルギーと時間がかかるが、自ら追究する子を育てると共に、次の学年の財産にもなっていく。具体的な実践報告によって、組織的に行うことのすばらしさを痛感した。

講評 上智大学教授 加藤幸次先生
先生方が一生懸命でうれしかったです。私の研究は、子ども中心に考えてきました。そのため、学校全体・教育課程全体・人全体を動かすので困難な点もありますが、動き始めると長く続いています。学校全体が続いていることはとてもうれしいことです。もちろん、校舎建築も深い関係があります。今後、学習材・学習の手引きの情報を流したいと考えます。(等々方)

B会場 高江洲小学校

・公開授業

生活科(1、2年) 算数(3、6年)



—生活科 いかた作り発表会—

高江洲小学校は、昭和58年校舎全面改築によりオープン・スペースを備えるようになった。338名(13学級)の学校である。夏休みの神楽のジリジリする暑さの中で、登校した元気いっぱいの子もたちは、活発に、個性あふれる学習を展開した。生活科では、1年生は、いろいろなコーナーが用意され、お母さん方の説

力も得て、自分のやりたいお手紙に楽しそうにチャレンジしていた。2年時は、いかだ作りの発表を子どもらしい表現でのびのび学習をしていた。算数は、基礎的・基本的内容をしっかりとおさえた緻密な学習指導が展開されていた。
・研究発表「個性化の授業づくり」

提案者 池田伊三郎先生(神奈川県・大磯小)
ビデオを使った大磯小学校の個性化教育推進の実践報告があり、多様で柔軟な工夫や対応の必要性が強調された。そして大げまぬ「個性化の授業づくり」(=カリキュラム開発)こそが「個性化教育」(=個性重視の学校教育)推進の原動力であると結ばれ、会場の熱気を冷まそうとするかのようなスコールの中、討議が終了した。(館岡)

◎会場 高江洲中学校

高江洲中では、2年理科「物質と原子」と3年数学「2次方程式」の2つの学習指導が公開された。

理科は、物質の沸点と露点についてのグループ実験を中心とし、「単元内自由進捗別学習」をベースに、一部「課題選択学習」を取り入れたかたちで進められた。ワークシート類には熟慮・工夫の後が見られ、簡潔で明晰なものとなっていた。子ども達の動きはかなりダイナミックでテキパキとしているにもかかわらず、各自のペースにそった活動が保証されているためか、むしろゆったりとした感じを与えるものであった。

数学では、SP表によるレディネス・テストの分析や単元の知識・技能の階層構造検討など、子どもの実態の把握と学習材についての周到な準備がまず印象的であった。学習指導は、形成テストの正解数をもとに3つの学習コースのいずれかに分岐していくもので、主に習熟度差に対応した個別化指導と言える。自分の習熟度に最適化された課題が与えられているので、どの子どもも熱心に取り組んでいた。(奈須)

午後 (キャッスル・ハイランダー)

課題研究発表

午後は、全体会場に集合し具志川小学校・具志川中学校三校会による三味線の演奏、具志川中学校のエイサーのアトラクションから始まった。

名古屋大学の浅沼茂先生を司会に、九州個研から光武充雄先生、東海個研から永井一美先生、事務局(東京)から佐久間和茂先生の課題研究

発表があった。個性化教育推進のベテランである3人から、それぞれ別々の切り口から興味ある発表がなされ、これからの我々の実践の糧となった。(館岡)

講演 「個性化教育のための評価」

全国個性化教育研究連盟 事務局長

高浦 勝茂

1. 改訂指導要録の特徴
 2. 追い付き型時代の評価と個性化教育における評価
 - (1)「問題解決」としての評価観と多様な評価の諸相
 - (2)教師の密着評価について
 3. 個性化教育評価の進め方
 - (1)教育評価におけるスゲイクの「籠」モデル
 - (2)評価計画の立案・実施・指導の改善、通信簿の作成—生活科における実践を例にして—
- 以上のような講演内容であった。
参考文献「生活科における評価の考え方・進め方」(黎明書房)



—講演 加藤幸次先生—

講演 「個性重視の教育」

全国個性化教育研究連盟 副会長

加藤 幸次

加藤先生と高浦先生や浅沼先生との出会い等や個性化教育の夏季研修会が8年も続いてきたことなど和やかな雰囲気の中で講演が始まった。

続いて、学校をとり囲む諸条件の変化ということで次の4点に関する指摘がなされた。

- (1)「学校施設設備指針」の根本的な転換
- (2)「学級規模」の縮小
- (3)多様な教材・教具

(4)LD(学習遅進児)の研究

最後に、「これからこの個性化教育が、第三の教育改革として、日本の社会に(文化)の中に根付いた教育にしたい。また、教師の主体性、教師自身の創造性を抜きにしては長く続かない。」という話で締めくくられた。(並木)

☆第2回 7月28日(火)

講演「個性化教育のための学校改革

—新しい学校づくりのための計画条件—

東京都立大学工学部 助教授 工学博士

上野 淳

多目的スペースを有する公立小・中学校が、3000校(約1割)を越えた。インテリジェント・スクールへの改革が急速に進みつつある。我が国の学校が本来の意味での「インテリジェント・スクール」へと脱皮していくために、改革していくべき環境計画上の条件はまだ山積みしている。これからの主要な点として、

- ① オープンスペース、多目的スペースの計画条件。
- ② コンピュータ学習環境の整備。
- ③ 地域とともに学ぶ学校
……生涯学習施設との複合化と連携。
環境が子どもに学習しようとする意欲を育てる。「教える環境づくりではなく、学ぶ環境づくりである。」
- ④ 学校用家具の再考。
- ⑤ 実習スペース、特別教室の再編成。
などがあげられる。(川島)

施設参観 具志川市役所

1つ目は、開催地である具志川の市役所見学だった。西洋建築の素晴らしい外観は、具志川のシンボルにふさわしいものだった。

- ・市民が親しみやすく、利用しやすい庁舎
- ・職員が働きやすく、機能的な庁舎
- ・経済的な構造とし、維持管理のしやすい庁舎

という基本構想をもとに建てられたものだがそうである。各階を見学し、市民ロビーが多目的に使用できること、事務室がオープン化していることなど新しい建築様式に感心した。

事務室のオープンフロア化は、行政事務の高

度化・多様化・情報化に対応できるように各課間の間仕切をなくし、フレキシビリティを高めるためにしたものであるらしい。

また、事務室及び市民ロビー等は、タイルカーペット敷で、吸音性、安全性を高め、来客者や職員に心理的安定感を与えたり、フロアダクトの配管やフラットケーブル等の配線によりアンダーカーペットシステムを採用し情報化に対応したりできるように設計されたものである。

21世紀へのびる町づくりをめざす庁舎として、市民のコミュニケーション空間を存分に設けた建物はとても素晴らしい。

沖縄蘭研

2つ目に、「沖縄蘭研究所」の参観だった。東洋一と言われるこの研究所では、蘭の原種の保存と新種の改良をしている。種からバイオテクノロジーを使って栽培する研究をしている。多数のビニルハウスには、種から花の咲くまでの苗が数多くあり、驚くとともに、最新式の技術や機器を使った苗の育成の様子を見て、蘭の花の高価な理由が何となく分かったような気がした。(橋本)

番外 オプショナル・ツアー

韓国からの先生方と東京事務局の40人ほどで、28日の午後と29日の一日を観光バスをチャーターしオプショナル・ツアーを計画した。28日は、蘭研から東南植物園へ。にわか雨が降り出したがそれほどでもなく、つきの琉球村では目も眩むような日差しが照り始めた。ハブとマンガースのショーに興奮し、共栄ガラスではショッピング。最後は万座毛の断崖で写真撮影して那覇市内のホテルへ。

29日は南部戦跡観光。まず旧海軍司令部壕見学。戦争の生々しさに触れ、ショックを受けた。そのあとひめゆりの塔そして資料館。ひめゆり部隊の生き残りの方の話には思わず引き込まれた。じゃんけんで負けたためにガス弾を浴びた壕に入らず助かったという話は生々しかった。そして、摩文仁ノ丘を汗をかきかき登った。言葉は通じなくてもすっかり仲良くなった韓国の先生方との再会を約束して、JAL906便で帰路についた。(館岡)

<事務局への問い合わせ・連絡先>

〒115 東京都北区赤羽南1-16-2-504

03-3903-4780 庶務部長 佐久間 茂和

全国個性化教育研究連盟会報 第22号

平成4年9月12日発行

編集責任者 事務局長 高浦 勝義

編集 広報部 館岡 茂樹